

庁内の公的データの活用(分析・可視化等)をするために、プロセスごとに必要な改善、強化策および進捗は以下のとおりです。

大前提として、プロセスは必ず順方向にのみ進むものではなく、試行錯誤を繰り返しながら全体として徐々に進んでいくものであり、進めることで新たな課題及びその解決に向けた対策が必要であると認識しています。そのため、現状において可能な範囲で、できるところからスモールスタートで着手しています。また、「育てる」についてはすべてのプロセスを支える重要な要素であり、プロセス全体に関わっているため、データの蓄積から人材育成までを包括的に実施する必要があります。さらに、データ利活用と両輪をなすものとして、BPR(業務改善)による業務のデジタル化、データ化も必要です。

令和4年度(2022年度)は主に「育てる」を中心に実施しながら、データ利活用推進事業の中で一連のデータ分析を実施しているところです。取組をする中で、それぞれのプロセスにおける課題を洗い出し、一つずつ課題解決に向けて進めています。

プロセス	実施内容	改善、強化策	進捗	今後の取組
利活用する	<ul style="list-style-type: none"> データに基づく施策の立案、実施、評価によるEBPMの実現 	<ul style="list-style-type: none"> 分析結果を反映し、改善した事業の増加 施策検討の基礎となる情報の共有(人口動態等) 	<ul style="list-style-type: none"> 分析案件について施策への反映を検討中。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き可視化や分析事例を増やし、意思決定やKPI・目標値の設定につなげられる事例を増やしていく
分析する	<ul style="list-style-type: none"> 統計解析によるパターン発見 予測分析による将来推計 	<ul style="list-style-type: none"> 分析事例を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> 学童保育の需要予測分析や地域ごとの人口予測分析を実施。 職員でできる範囲と外部の専門家で実施する範囲を整理。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き一連のデータ分析を実施
可視化する	<ul style="list-style-type: none"> 現状データの可視化 可視化による現状把握・評価 	<ul style="list-style-type: none"> BIツールの導入 可視化した情報の共有 自動更新による効率化 	<ul style="list-style-type: none"> 予算ダッシュボードなど、一部で可視化を進めている。 ExcelやBIを使った演習形式の研修を実施。 データ利活用推進担当による可視化に向けた取組を進行中。 	<ul style="list-style-type: none"> 可視化事例を増やし、データに基づいた情報共有や対話の重要性を広める
集める・溜める・整理する	<ul style="list-style-type: none"> 庁内データの集約 集約データを統計情報化し、公開(オープンデータ化) データ収集・共有する仕組みの構築 	<ul style="list-style-type: none"> データ利活用に関するルール整備(個人情報等の取扱い等) 機械判読可能なデータで保存することの重要性についての周知 データを収集・共有する仕組みの検討、構築 ノーコードツールの導入によるデータベース化 	<ul style="list-style-type: none"> データ利活用推進事業の中で一連のデータ分析及びデータを収集・共有する仕組みの構築に向けた研究・検討を行っている。課題抽出を行っている。 研修の中で、データ保存形式の重要性について周知。 	<ul style="list-style-type: none"> 法改正を踏まえた個人情報の利活用に係るルール整備、庁内データの集約やアクセス権限の設定等、必要事項の研究・検討を進める
育てる	<ul style="list-style-type: none"> データ利活用・BPRに関する基礎知識の習得 市民視点で真のニーズを捉え、課題を適切に設定する能力の向上 Excel/BIなど、デジタルツールの利用 	<ul style="list-style-type: none"> データ利活用・BPRに関する各種研修の実施 サービスデザイン/ロジックモデルの研修実施 データ利活用推進担当の育成、活動 	<ul style="list-style-type: none"> R4年度から順次研修を実施。講義、演習、ワークショップ等も含めて全体の約40%の職員が1回以上の研修を受講。 DX推進ビジョンを策定。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き研修によるデータ利活用に向けた意識醸成 目指す姿の共有とビジョンの推進 組織風土の変革 ペーパーレス化による紙台帳からデータベースへの移行